



今年も1月から「火曜喫茶店」での催しが続く

大上地区社協が管理・運営している“深谷大上ふれあいの家”で毎週火曜日に開いている「火曜喫茶店」は、岩月理事が店長として色々な企画展も催していますが、平成29年に入った1月から多彩な催しが企画され、来店した皆さんが楽しんでいきます。

感じたままを描いた「絵手紙展」《1月31日》

1月31日(火)には、こぶし会の皆さんによる「絵手紙展」が催された。こぶし会は、会長の横関文江さん以下10名の会員が講師の植松さんの指導で、身の回りのものを心を込めて描いて絵手紙にするサークルで、今回は150点の作品が展示された。

当日は大上地区社協の会員を始め、地域の皆さんなど63名が来店され、出品作品に見入っていました。一方、描くことに関心のある方は植松講師から描き方の指導を受け、出来上がった作品に皆さんから拍手を得ていました。



絵手紙に挑戦する見学者

児童達も見学した「昭和展」《2月14日》

1926～1989年の昭和は、戦前戦後の激変した時代です。その当時の釜やアイロン、たらいと洗濯板、そろばん等の生活道具やカメラ、蓄音機、めんこなど、そして一面が畑であった大上地区の当時の写真などを展示した「昭和展」が、今年は2月14日(火)に催された。

来店された皆さんは、展示された数々の品を懐かしそうに眺めながら当時の思い出を語り合っていました。また、当日は北の台小学校3年生全員の76名もクラスごとに担任の先生に引率されて来店し、岩月店長から説明を聞いて勉強していました。



3年生に説明する岩月店長

華やかな「ひなまつり」《3月5・6・7日》

雛祭りは、江戸時代中期から子どもの健やかな成長を願って飾られるようになって今日に至っていますが、火曜喫茶店でも地域の皆さんの協力を頂いて3月5・6・7日の3日間にわたって「ひなまつり」を催しました。

会場には内裏雛や三人官女、五人囃子などの人形235体が飾られ、見学者を楽しませていました。特に古塩市長も多忙ながらも5日(日)午前10時過ぎに来店され、熱心に見学されていました。そして『地域の催しとして素晴らしい。雛人形は日本の伝統的文化なので、大切にしたいものです。』と語っていました。なお、開催3日間の来店者は208名で、初日74名、2日目49名、3日目85名でした。



見学者と懇談される古塩市長
(奥の右から2人目)

続いて3月は、14日が「布あそびとつるし雛展」、21日が「着物のリフォーム展」、28日が「不動霊場巡り展」が予定されていますので、皆さん気軽にぶらりとお立ち寄り下さい。

“誰でも作れる簡単料理”講習会で男性も包丁を持つ

高齢者部会(部長は峯下理事)が主催しての本事業年度4回目の「誰でも作れる簡単料理」の講習会が、2月18日(土)に男性12名を含めて40名が参加して行なわれた。

今回は、①生姜入りごぼう炊き込みご飯、②ステーキ豆腐のきのこあんかけ、③ほうれん草のごま和えの3品で、参加した男性も包丁を使って和気あいあいと料理を作り、出来上がった料理を皆さん満足そうに食べていました。



男性も包丁を使って料理作り